実践記録

「志津里山自然学校」プログラム②

「ホタルと友だちになろう」

実施日	活動場所	参加者	講師	スタッフ
2022.6.4 19:00～21:15	馬場町内水路	19名	鈴木道弘先生	8名（まちセン2名　まち協2名　市3名 井阪様）

■プログラム説明とお願い（水野）　　18:55～

※活動内容・スケッチブック活用の説明　　アンケート依頼

ホタルに関する話　　19:00～19:30

講師　鈴木道弘先生

ねらい　ホタルの生態や生育環境を学ぶ

生物多様性の学び

ホタルを通して、生物多様性の恩恵や人間生活との関わりを考える。

恩恵・・文化的サービス　　関わり・・生物多様性に与えている負荷

クイズも交えながら、ホタルの生態や生育環境の説明を聞く。

資料：ホタル学習「ホタルと友だちになろう！」　42枚のスライド

①「ホタルを見たことがありますか？　さわったことがありますか？」

②「ホタルはなぜ光るのですか？　ホタルの光は・・」

・目を楽しませ心を和ませる　・自然のすばらしさを伝える　・ふれあいの場をつくる　・世代を超えた交流を促す　・ふるさとの楽しい思い出をつくる

➡【生物多様性の重要性に気づく】・・生物多様性の恵みの一つ「文化的サービス」に気づく。

③「日本に生息するホタルの種類は何種類でしょうか？」

④「ホタルと同じ昆虫の仲間はどれでしょうか？」

⑤「ホタルのオス・メスの違いは分かりますか？」

※オスは発光器が二段でメスより小さい　メスは発光器が一段

⑥「ゲンジボタルの幼虫が大好きな食べ物は何でしょうか？」

⑦ゲンジボタルの一生について

⑧「成虫は自然界で何日生きていると思いますか？」

⑨ホタルがすむ環境の変化

・河川改修・浚渫工事・宅地開発などによる環境変化

・人間の暮らしの夜行性化・・・ホタルにとっては「光害」

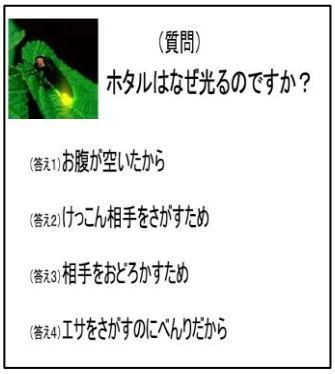
➡【生物多様性と人間生活との関わりを考える】・・日常生活や社会活動が生物多様性にどのように関係しているか、またどのような負荷をあたえているかについて気づく。



鈴木先生の話（PP 資料）



クイズ形式で楽しく



スライド「ホタルはなぜ光るの」

⑩ホタルから思うこと

・生き物のつながり「生態系」について
・人間は生態系の頂点。自然の恵みの中で、いろいろな生き物たちに支えられ生きている。 ➡ 【生物多様性の重要性に気づく】
・自然の営みの中、人間の豊かさや便利さだけを求めるのではなく、いろいろな生き物たちが生きている環境を考えること。生物多様性が大切。➡ 【生物多様性と人間生活との関わりを考える】

⑪次世代のために

※持続可能な社会　資源循環型社会（SDGs）

見つめよう！私たちの暮らし方、未来の地球環境のこと



スライド「ホタルがすむ環境変化」

ホタルの紙芝居　19:30～19:40

講師　鈴木道弘先生

題名「ホタルくんとカエルさん」

※子どもたちにとって分かりやすい話であった。



紙芝居に聞き入る子どもたち

ホタル観察　19:45～21:05

1. トイレ休憩・諸注意・人数確認
2. ホタル観察

往路・・・馬場町会館→願信寺前→山本様宅左折→林中様宅手前

復路・・・林中様宅手前→山手幹線道路下（工事中）→こばやしモーター十字路を左折→馬場町会館

※林中様宅周辺や復路において、多くのホタルを観察することができた。

※子どもだけでなく大人も、ホタルとの出会いに感動する姿が見られた。



手のひらにのせて・・

振り返り　21:05～21:15

※馬場町会館へ到着した人から感想（振り返り）用紙に記入（以下感想例）

質問1　一番楽しかったこと・心に残ったことは？

「ホタルがたくさんいて、何匹も見ることができて楽しかったです。実際に手の平にのせて、オスかメスかあてたりすることにも感動しました。」

質問2　新しい発見・初めて知ったことは？

「オスとメスでは光の色に違いがあったり、大きさが違ったりしていることが分かった。」

「馬場町がこんなに自然豊かな場所だと分かりました。」

質問3　その他、思ったことなどは？

「自然を大切にして、ホタルに生きのびてもらいたい。」

「こんなに近くで見られるとは思ってもいませんでした。実際に触れ合えとても良い体験に親子で興奮しました。ありがとうございました。」



おでこに・・友達になれたよ

■参加者解散　21:20

■スタッフ反省会

今回は6月15日（水）に実施

■本実践の評価は別紙参照

別紙　令和4年度「志津里山自然学校」プログラム②「ホタルと友だちになろう」の評価